

後方視界情報提供装置に関する試験方法・評価方法（案）のポイント

ここまでの WG、TF での議論を踏まえて、後方視界情報提供装置に関する試験方法及び評価方法について取りまとめた内容のポイントは以下のとおり。

1. 評価範囲・評価点について

(1) 評価範囲については、平成27年度の評価範囲は後方のみとする。

なお、前方及び側方については、事故実態の把握とその効果的な事故防止対策のあり方に係る検討を引き続き行う。

(理由等：前方及び側方については、現状、事故件数が少なく、事故状況の分析が可能なデータもないなど、その削減効果の明確化が困難であった。)

(2) 評価点は6.0点とする。

(理由等：後方に限定し、ASV の効果評価を再計算（駐車時、発進時の人対四輪の事故にターゲットを絞り込んだ）するとともに、実験データから導いた安全作動率0.7を用いて算出した。)

2. 試験方法について

(1) 具体的な評価範囲(確認位置)・視対象物、確認方法を以下のとおり整理した。

①実験とシミュレーションにより求めた事故の危険性が高い車両後方のエリアを全てカバーできるよう、視対象物（ポール）を配置する。具体的には、後方遠方部に3本、後方近傍部に2本とするとともに、子供が入り込む可能性のある後方直近部として、後方近接部に3本置いて確認する。

②視対象物の大きさは、近傍部と近接部については縁故者事故で件数が多く、かつ、厳しい条件と想定される1～2歳児がしゃがんだ状態の60cm（高さ）とし、1～2歳児が収まる30cm（直径）とした。一方、遠方部については、1～2歳児の移動時を想定して、平均身長である90cm（高さ）とした。マーキングエリアについては、1～2歳児の平均肩幅程度となる20cm幅を採用した。

項目/国		日本	米国
後方確認距離（遠方）		3.5m	6.1m
近傍確認位置		車両側端から 30cm	車両中心から 1.5m
近接確認位置		車幅内・バンパーと接する位置	-
視対象物	寸法（近傍・近接）	高さ 60×幅 30	81×30
	寸法（遠方）	高さ 90×幅 30	81×30
	マーキングエリア	遠方（全体） 近傍（縦横 20cm エリア）	遠方（上部 15cm） 近傍（15cm 幅の縦帯）

(理由等：基本的には米国 NHTSA の法規を参考としている。しかしながら日本のマイクロデータが少ないなど、実際の事故データから評価範囲を推定することが困難であることから、実験データ（一般ドライバーの運転挙動を確認）及びシミュレーション（運転挙動をベースに危険な状況を確認）により事故低減効果のある評価範囲について決定した。また、視対象者にしゃがんだ幼児も含めるなど、日本において散見される縁故者等による駐車・発進時における事故も念頭におき、可能な限り死角をカバーする試験方法とした。)

(2) 評価基準については、以下のとおり整理した。

①近接部においては、視対象物の一部が表示されること。(一部でも確認されればよい。)

②近傍部においては、視対象物の一定範囲が表示されること。一定範囲とはマーキングエリアのどこかの箇所高さ方向 20cm 以上、巾方向 20cm が表示されること。

③遠方部においては、視対象物の全てが表示されること。

④表示の大きさについては、NHTSA の試験方法を参考に後方遠方部の視対象物のマーキング幅 20cm が視角 5 分以上で表示されること。

(理由等：カメラの技術特性を考えて、遠方ほど視対象物を捕らえる範囲を厳しくしている。また表示の大きさについては、一番遠方の視対象物を代表として評価している。)

3. 配点について

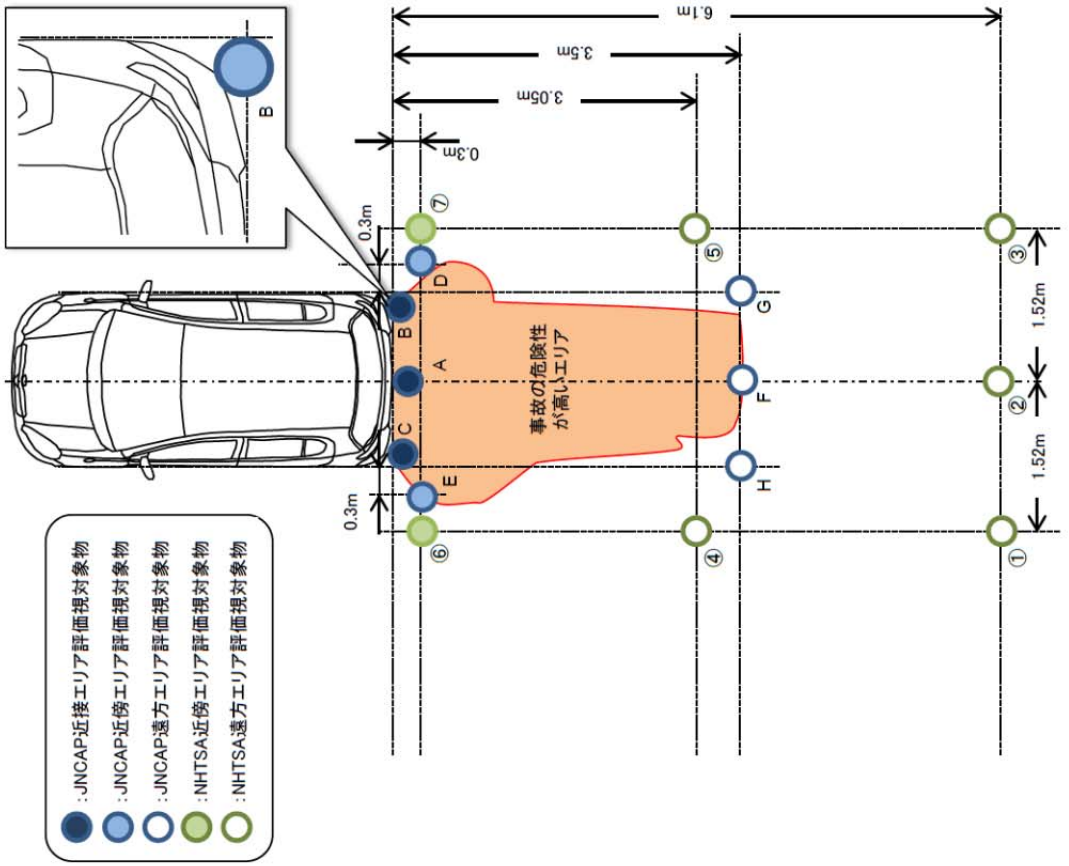
(1) 全6点に対して、部分点を認める。具体的には、評価基準を満たさない視対象物あるいは項目につき、-1 点等の減点を行う方式とした。

(理由等：評価方法として厳しい要件があることを考慮して、減点方式を用いることで、適正な評価を可能とすることを目指した。)

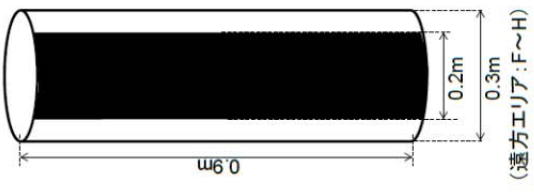
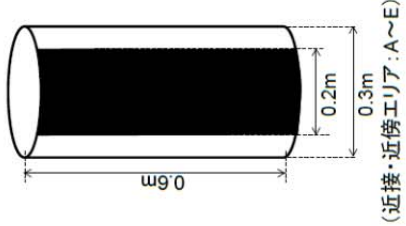
以上

車両後方に関するJNCAP試験とNHTSA試験との対比

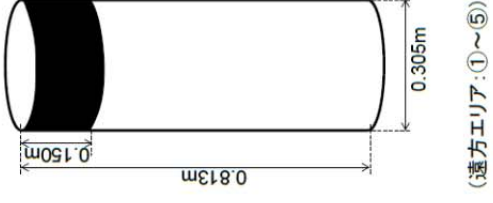
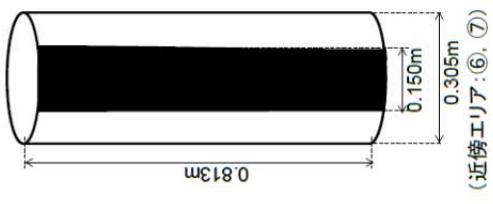
【視対象物と設置位置】



- : JNCAP近接エリア評価視対象物
- : JNCAP近傍エリア評価視対象物
- : JNCAP遠方エリア評価視対象物
- : NHTSA近傍エリア評価視対象物
- : NHTSA遠方エリア評価視対象物



JNCAP視対象



NHTSA視対象